

中国ブロッククラブネットワークアクション 2017 開催報告

日時： [1日目] 平成 29 年 11 月 4 日（土） 13:00 ～ 17:15

[2日目] 平成 29 年 11 月 5 日（日） 9:00 ～ 12:00

会場：新日本海新聞中部本社（鳥取県倉吉市）

内容：テーマ：

[1日目]

1. 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」
2. 基調講演・グループワーク「大江ノ郷自然牧場に人が集まる理由」
3. 日本体育協会からの情報提供

[2日目]

1. 基調講演「SNSから発信する浦富海岸の魅力」
2. 事例発表・パネルディスカッション
「地域の課題を地域と上手く連携して解決しているクラブ」

【概要】

本ネットワークアクションは、総合型地域スポーツクラブの運営に必要な情報や課題解決に向けた具体的な取組事例等について情報共有を行い、クラブ育成・支援のためのネットワーク強化と各都道府県総合型クラブ連絡協議会間の連携体制をより一層促進することを目的に開催するもの。今回、中国ブロックでは、「地域資源を活かしたまちづくり」をブロック別のテーマとして開催した。

【内容】

[1日目]

共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

講師としてお招きした山下忍氏（鳥取県障がい者スポーツ協会スポーツ指導員）による「鳥取県障がい者スポーツ協会に関する情報提供」を行い、障がい者スポーツのとらえ方や障がい者スポーツの現状、鳥取県障がい者スポーツ協会の活動内容について紹介いただいた。

グループワークでは、「知的に障がいのある方」を対象を絞り、クラブのプログラムに参加するにあたって、どのような情報が必要なのか、その情報をどこから得るのか、誰に相談するのかを話し合い、発表後に講師から、補足やアドバイスをいただいた。

また、同じく講師としてお招きした松田佐恵子氏（鳥取県障がい者スポーツ協会事務局長）からは、「知的障がい者に関する基礎的情報提供」として、知的障がい者の定義や障がいの特性、支援方法についてお話しいただいた。お二人の講師から情報提供等いただいたことにより、総合型クラブにおいて、障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむ際に大切なことや接し方など、障がい者の受け入れに対して理解が深まり、疑問や不安が軽減された。



基調講演・グループワーク

演 題：「大江ノ郷自然牧場に人が集まる理由」

講演者：小原利一郎氏（大江ノ郷自然牧場代表取締役）

限界集落に近い地域をどのような思い・方法で観光地に変えていったかの経緯や、地域住民・お客様・スタッフとどのように関わってきたか、仕事に対するこだわり等についてお話しいただいた。

自然豊かな環境を強みに、都会に向けて発信していく、八頭町^{やすちよう}を全国の人に知ってもらい足を運んでもらう、そして、自然や製造過程（牧場内で直売所やレストランを運営）を見てもらう。また、地域と連携した地域循環型農業に取り組み、こだわりを持って良いものを作る。公害産業を受け入れてくれた地域に対し、大江ノ郷自然牧場を観光地にすることが恩返しだという気持ちで、志を持つ仲間と連携して取り組み、スタッフ全員がお客様との繋がりを大切に、おもてなしをしっかりとる。「日本で一番笑顔が集まる町」を経営理念として、スタッフ・お客様・地域の方全員が笑顔になれる場所づくりを目指すといったクラブ経営に繋がる内容であった。

講演内容を受けてのグループワークでは、「クラブ理念」と「今後のクラブ運営」について話し合った。時間が足りず、まとめきれなかったため、時間設定を今後の検討事項としたい。

最後に、小原氏より、「ミッションは変わってもいいと思っている。その時々で決めてもらえたら現実的で皆が動きやすいのではと思う。」とアドバイスをいただいた。



[2日目]

基調講演

演 題：「SNSから発信する浦富海岸の魅力」

講演者：中谷英明氏

(Tottori Blue Snorkel&Photo Service 代表)

中谷氏は、小学5年生のときにはじめて訪れた浦富海岸の魅力に取りつかれ、県職員として勤務しながら浦富海岸をホームグラウンドにして水中写真を撮り続け、52歳で早期退職後、現在の会社の代表となった方である。白衣とカニのかぶり物姿で登場した中谷氏は、「さかなクン」とのエピソードを交えながら、山陰海岸の海中の様子や珍しい魚を紹介。「山陰の海は沖縄に比べるとクリアではないが、プランクトンがたくさんいる豊かな海。豊かな海の色が“とっとりブルー”です。」と山陰海岸の魅力を伝えた。海中の撮影は、「子ども目線」にこだわる「素もぐり」が基本だそうだ。

スノーケル時に撮った写真を体験者に提供するだけでなく、インスタグラムにも掲載している。インスタグラムは写真に特化しているため宣伝が不要で、近年ユーザーも増えている SNS の一つ。画像の撮り方や掲載写真の選定方法など、インスタグラムに掲載した写真を見ただけで足を運んでみたくなるような写真をアップすることが大切である。

地元を知って、楽しんで、それを伝える。「地元の人が楽しそうにしていると、地域の魅力にならない。ワクワクする楽しさを伝えてほしい。」と、クラブのPR活動にもつながる重要なお話を聞くことができた。



事例発表・パネルディスカッション

テーマ：「地域の課題を地域と上手く連携して解決しているクラブ」

コーディネーター：米谷 正造氏

発表者：鳥取県：梶川 いづみ氏 (スポねっとちづ)

島根県：金山 恵美子氏 (NPO法人SPORTIVOひがしいずも)

岡山県：小野 耕作氏 (NPO法人きよね夢てらす W-a-c-c-o-r-d)

広島県：深井 高子氏 (一般社団法人芸北道場)

山口県：中野 久治氏 (NPO法人Goppoええぞなクラブ)

「人口の少ない町で、人との繋がりを大切にした取組」、「段階に応じた運動習慣づくりのプログラム提供」、「高齢化が進む地域で誰もが気軽に活動に参加できる受け皿の機能を果たす」、「学校や行政、地域の様々な団体と連携して事業を行う」など、各県から1クラブずつ、地域の課題解決に繋がっている取組を発表いただいた。



まとめ

クラブ運営に大切な経営理念の共有や、地域・顧客・スタッフとの繋がり、こだわりを持ちぶれない思いを持って経営にあたること。また、SNSを利用した広報を行う際に、写真の撮り方や掲載写真の選定を工夫することでお金をかけずに集客できる方法など、クラブ経営に繋がる内容で大変参考になった。

また、各クラブが試行錯誤しながら、地域のために思いを共有しながら課題解決に向けた活動をしていることや、それぞれの地域や規模に合った経営をしていることを共有する良い機会にもなった。しかしながら、このような各クラブの取組が、県行政・県体協・市町村行政・学校・スポーツ少年団指導者にまだまだ十分な認知を得られているとは言い難い状況であることも事実である。総合型クラブの社会的な認知度が上がらない課題も含め、総合型クラブだけでは解決できない問題を、引き続き様々な分野の方と協力しながら解決していきたい。

